

# 会 報

No.37 (1990年11月)

## 目 次

- ◆第13回日本分子生物学会年会のお知らせ(その3) ..... 1
- ◆1989年度会計収支決算報告..... 2
- ◆1989年度会計監査報告..... 3
- ◆総会のご案内..... 3
- ◆文部省科学研究費について..... 4
- ◆次期評議員選挙と会員名簿について..... 4
- ◆各種研究助成などの本学会推薦について..... 4
- ◆第17回核酸化学シンポジウムのお知らせ..... 5
- ◆第6回ワークショップ「DNA複製」のご案内..... 9
- ◆各種シンポジウムのご案内.....10
- ◆日本学術会議より.....12

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

### ◆第13回日本分子生物学会年会のお知らせ（その3）

年会のプログラムが印刷できましたのでお届けいたします。なお、年会についてのお問い合わせ、ご連絡は下記宛にお願いいたします。

〒530 大阪市北区松ヶ枝町6-3 第10田淵ビル 2 F

(財)日本学会事務センター大阪事務所内

第13回日本分子生物学会年会係

T E L : (06)356-6041、F A X : (06)356-6190

#### ポスター発表についての注意事項

第13回日本分子生物学会年会においてポスター発表を予定しておられる方は、下記の注意事項を読んで準備をして下さい。

1. ポスター発表演題には発表番号がつけてあります。最初の数字は年会何日目であるか、次の番号は掲示パネルの番号を示しています。要旨の前に同じ番号がつけられています。発表番号についてはプログラムをご覧ください。
2. パネル上の掲示に使えるスペースは、150cm×150cmで両側に約30cmの間隔があります。ポスター上部に、発表番号・演題・発表者名・所属を大きな字で書いて下さい。見学者が特定のポスターを見いだすのに便利なように、演題・発表者名・所属は少なくとも5—6m離れた位置からも明瞭に見える大きさにして下さい。なお、代表発表者名の前に○印をつけて下さい。
3. 言語は原則として日本語とします。
4. ポスターの様式は自由ですが、少なくとも簡単な序論と結論を含めるようにして下さい。カラーインクを用いて色分けする、図解を用いる、色付きの台紙に貼るなど見やすいものにする工夫をしてください。
5. 2—3m離れたところからも読めるように、十分大きな字を用いて書いて下さい。図・表等もできるだけ大きなものにして下さい。
6. ポスター掲示およびポスターの取付け・取外しの時間は下記の通りです。時間を守るようにして下さい。取付けに必要な押しピンは会場に準備してあります。

9：00—19：00 ポスター掲示（最終日は16：30まで）

8：30—9：00 取付け（第2、3、4日目に発表の分については各前日の19：30—20：00でも可）

9：30—10：30 口頭説明（演題番号が奇数のポスター）

11:00—12:00 口頭説明（演題番号が偶数のポスター）

19:00—19:30 取外し（最終日は16:30—17:00）

7. 指定された口頭説明の時間帯には説明・討論ができるようにポスターの掲示場所に代表発表者が待機して下さい。

### シンポジウム講演発表者へのご注意

1. シンポジウム毎、演題毎に講演時間、討論時間が異なっている場合が多いので、ご自分の発表時間についてプログラムで確認の上、発表の準備をして下さい。
2. シンポジウム講演発表の演者の方はポスターセッションと両方で発表することになりますのでお間違えなきようにご準備下さい。

### 国際会館内小会議室の使用についてのお知らせ

第13回日本分子生物学会年会の第1、2日（11月26、27日）の日程終了後に小集会、インフォーマル・ミーティングなどの開催を希望される方は、国際会館内の小会議室を使用出来ると思いますので、日本学会事務センター大阪事務所内第13回日本分子生物学会年会係までお問い合わせ下さい。

### ◆1989年度会計収支決算報告

1989年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

第6期 会計幹事 西郷 薫

1989年度日本分子生物学会収支決算書

(1989年4月1日～1990年3月31日)

#### 〔I〕収入の部

科 目	予算額	決算額	摘 要
学 会 費	7,190,000	8,365,000	入会金 541,000 正会員 6,229,500 学生会員 1,460,000 外国会員 134,500  第12回年会より 印税等
賛 助 会 費	990,000	1,050,000	
廣 告 収 入	—	0	
預 金 利 子	120,000	195,140	
寄 付 金	—	1,000,000	
雜 收 入	—	926,030	
小 計	8,300,000	11,536,170	
前 年 度 繰 越 金	6,600,000	8,161,172	
総 計	14,900,000	19,697,342	

〔Ⅱ〕支出の部

科 目	予算額	決算額	摘 要
事業費	2,500,000	2,489,299	
会報発行	800,000	806,629	
プログラム	500,000	482,670	第12回年会
特別講演謝金	200,000	200,000	〃
第13回年会補助	1,000,000	1,000,000	
評議委員会費	450,000	578,846	
委員会費	450,000	578,846	
役員選挙名簿作製費	0	0	
業務委託費	3,380,000	4,017,375	(財)日本学会事務センター
一般事務費	2,140,000	2,688,317	
用品費	5,000	0	
印刷費	35,000	81,320	
通信費	2,000,000	2,545,859	
事務謝金	100,000	0	
その他	—	61,138	
予備費	6,430,000	0	
小計	14,900,000	9,773,837	
次年度繰越金	—	9,923,505	
総計	14,900,000	19,697,342	

◆1989年度会計監査報告

1990年5月29日、会計簿、預金通帳、領収書、学会センター出納記録などの監査を行ない、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第6期会計監査

水島 昭 二 ㊞

溝 淵 潔 ㊞

◆總會のご案内

年會会期中に、日本分子生物学会第13回總會を下記により開催いたしますので、ご出席をお願いします。

記

日時：1990年11月28日（水）午後2～3時

場所：国立京都国際会館本館メインホール

次第：1. 経過報告

2. 議題

- i) 前年度会計収支決算承認の件
- ii) 来年度事業計画および予算承認の件
- iii) その他

文部省科学研究費の問題、学会誌に関するワーキンググループの報告などがあります。

#### ◆文部省科学研究費について

一般研究(C)について、平成3年度から3年間の「時限付き分科細目」のひとつとして「分子細胞生物学」が設定されました。日本学術会議より本細目の審査委員候補者4名の推薦依頼が本学会にありましたので、評議員の選挙によって4名の方を選び、学術会議に推薦しました。

また、従来からあった「生物物理学」分科中の「分子遺伝学・分子生理学」の細目についても、生物物理学会との協議のうえ、本学会から1名の審査委員候補を推薦しました。

#### ◆次期評議員選挙と会員名簿について

日本分子生物学会会則第11条と同細則第7条によって、第7回評議員選挙が1991年3月に行なわれます。この選挙のための会員名簿が今年12月15日現在のデータをもとに発行される予定ですので、勤務先や住所の異動があった会員は速やかに事務局（下記）までお知らせください。

〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
日本学会事務センター、日本分子生物学会事務局  
TEL (03)817-5801、FAX (03)817-5800

#### ◆各種研究助成などの本学会推薦について

○平成2年度（第17回）日産学術研究助成候補として、本学会選考委員の意見にしたがい、下記9件を推薦した。

〔一般研究〕

松本 邦弘（名大・理）、山岸 秀夫（京大・理）、岡田 吉美（帝京大・理工）

〔奨励研究〕

有賀 早苗（北大・薬）、大谷 清（東北大・医）、滝口 正樹（熊大・医）、  
野間 隆文（山口大・医）、畠山 昌則（阪大・細工セ）、宮澤 宏（理研）

## ◆第17回核酸化学シンポジウムのお知らせ

共催：日本化学会・日本薬学会ほか

日時：1990年11月8日(木)～10日(土)

会場：名古屋市中心企業振興会館(吹上ホール) (名古屋市千種区吹上二丁目6番3号 電話 <052> 735-2111)

[交通]①名古屋駅前市バスターミナルグリーンホーム2番のりばより市バス81系統田代本通ゆき、「吹上」下車、徒歩2分(所用時間約25分)。②栄バスターミナル21番のりばより市バス160系統名古屋大学前ゆき、「吹上」下車(所用時間約10分)。

発表時間 ポスター発表：ポスターによる発表の前に口頭による概要説明4分(スライド5枚まで、その場での質疑応答なし)を行ないます。口頭発表：12分、討論3分)

### 第1日 (11月8日)

#### ポスター概要説明 — (9時30分から) —

- 1-1 グアノシン0-6位のアリル保護基 (<sup>1</sup>名大教養・<sup>2</sup>名大理) 早川芳宏<sup>1</sup>・広瀬雅朗<sup>2</sup>・野依良治<sup>2</sup>
- 1-2 エノールエステル構造を利用するヌクレオシドの3'位における新しい炭素-炭素結合形成反応(昭和大薬)  
○原口一広・田中博道・宮坂 貞
- 1-3 糖部にジエン構造をもつヌクレオシドの Diels-Alder反応(北大薬) 松田 彰・○野々村雅彦・吉村祐一・上田 亨
- 1-4 1,3-ジメチル-6-クロロウラシルとベンゼンとの光シクロ付加反応(東日本学園大薬) ○関 興一・大倉一枝・佐々木直子
- 1-5 ヌクレオシドとヌクレオチドのペルオキシソ硫酸塩を用いた酸化(鹿児島大教養) ○板原俊夫・古賀 直・吉武 孝
- 1-6 U1RNA 5'末端部位の化学合成(東工大理) 関根光雄・○佐藤尊彦
- 1-7 8位を化学修飾したアデノシンを含む2-5Aの化学合成とその生理活性 (<sup>1</sup>千葉工大工・<sup>2</sup>東大理・<sup>3</sup>横浜国大工・<sup>4</sup>Temple大医) ○長井健太郎<sup>1</sup>・高久 洋<sup>1</sup>・横山茂之<sup>2</sup>・河合剛太<sup>3</sup>・R.J.Suhadolnik<sup>4</sup>
- 1-8 アデニンの8位に種々の置換基を有する2-5Aアナログの合成とその性質(群馬大工) ○平野 篤・森浩章・沢井宏明
- 1-9 phosphonylethoxyalkyl誘導体の Hepadnavirus増殖阻害(福島医大細菌) ○横田智之・望月 忍・紺野謙治・茂田士郎
- 1-10 EsperamicinによるDNA切断生成物の同定 (<sup>1</sup>阪大薬・<sup>2</sup>京大化研) ○江端智彦<sup>1</sup>・廣明秀一<sup>1</sup>・上杉晴一<sup>1</sup>・杉浦幸雄<sup>2</sup>
- 1-11 合成RNAオリゴマーを用いたRNA N-グリコシダーゼの解析(山梨医大生化学) 遠藤弥重太
- 1-12 ヌクレオシドを基本骨格とする抗寄生原虫剤の開発—イノシン誘導体の抗リーシュマニア作用(<sup>1</sup>岡山大薬・<sup>2</sup>岡山大医・<sup>3</sup>北大薬) ○綿矢有佑<sup>1</sup>・谷藤久人<sup>1</sup>・窪地史恵<sup>1</sup>・森重和久<sup>2</sup>・石井 明<sup>2</sup>・松田 彰<sup>3</sup>・上田 亨<sup>3</sup>
- 1-13 エレクトロスプレーイオン化によるタンパク質の質量分析(化技研) ○石川啓一郎・丹羽吉夫
- 1-14 ラベルオリゴヌクレオチドによる遺伝子の検索(京都工繊大) 村上 章・○永原俊治・中浦美鈴・上松弘規・向江正幸・牧野圭祐
- 1-15 迅速かつ効果的な Subtracted cDNA Library作製法の開発 (<sup>1</sup>東理大理工・<sup>2</sup>東大医・<sup>3</sup>順天堂大医・<sup>4</sup>東理

大基礎工・<sup>5</sup>ニチレイ研) ○原 英二<sup>1</sup>・加藤智啓<sup>2</sup>・鶴井博理<sup>3</sup>・中田 進<sup>4</sup>・中島琢磨<sup>5</sup>・小田鈎一郎<sup>4</sup>

口頭発表 — (10時50分から) —

1-16 癌・エイズ患者尿中の修飾ヌクレオシドの分析・同定・定量 (1PL総研・2PL病院・3アリゾナ大薬) ○中野勝之<sup>1</sup>・八坂敏夫<sup>1</sup>・中尾照俊<sup>2</sup>・K.H.Schram<sup>3</sup>・B.Hammargen<sup>3</sup>

1-17 DNA標的抗生物質エルサミンAにおけるアミノ糖の「スイッチ」機能 (京大化研) ○上杉志成・杉浦幸雄

特別講演 1 Synthesis and Biological Activity of Novel Carbocyclic Nucleosides (N I H) Victor E.Marquez

口頭発表 — (13時00分から) —

1-18 数量化法によるヒト $\alpha$ -グロビン遺伝子の解析: 5'-スプライス信号配列の変異と $\alpha$ -サラセミア (北大理) 飯田陽一

1-19 mRNAのウィルスソイド様/MIRNA様リボ生物起源について (新潟大理) 大西耕二

1-20 ハンマーヘッド型RNA酵素の構造と性質 (1阪大薬・2蛋白工研) ○上杉晴一<sup>1</sup>・小田井修<sup>1</sup>・廣明秀一<sup>1</sup>・小玉啓文<sup>1</sup>・坂田武志<sup>1</sup>・田中俊樹<sup>2</sup>

1-21 RNAの化学合成とその構造解析 (1北大薬・2北大理) ○佐々木鋭郎<sup>1</sup>・岩井成憲<sup>1</sup>・津田 栄<sup>2</sup>・引地邦男<sup>2</sup>・大塚栄子<sup>1</sup>

1-22 テトラヒメナ・リボザイムのP3部位によるらせん形成の平衡と速度 (1甲南大理・2千葉工大工) 杉本直巳<sup>1</sup>・○門田典子<sup>1</sup>・佐々木宗夫<sup>1</sup>・山影俊一<sup>2</sup>・高久 洋<sup>2</sup>

1-23 リボザイムによるRNA切断反応中間体の abinitio計算による解析 (1工技院化技研・2微工研) ○内丸忠文<sup>1</sup>・田辺和俊<sup>1</sup>・上林正巳<sup>2</sup>・西川 諭<sup>2</sup>・多比良和誠<sup>2</sup>

1-24 生体内におけるリボザイムの作用 (1工技院微工研・2筑波大物質工・3工技院化技研) 高木 優<sup>1</sup>・進士秀明<sup>1</sup>・原田 誠<sup>2</sup>・小宮山真<sup>2</sup>・内丸忠文<sup>3</sup>・藤田 篤<sup>1</sup>・織田雅直<sup>1</sup>・西川 諭<sup>1</sup>・○多比良和誠<sup>1</sup>

ポスター発表 — (14時45分から) —

口頭発表 — (16時45分から) —

1-25 DNA鎖自己切断能をもつヌクレオシド自殺基質のデザイン; 1-(2-シアノ-2-デオキシ- $\beta$ -D-アラビノフラノシル) シトシンの合成と制癌活性 (1北大薬・2金沢大がん研) 松田 彰<sup>1</sup>・中島由紀<sup>1</sup>・○東 敦<sup>1</sup>・佐々木琢磨<sup>2</sup>・上田 亨<sup>1</sup>

1-26 プレオマイシンの核酸塩基認識機構: NMRと束縛分子動力学計算による d (GGGGAGCTCCCC)<sub>2</sub>の溶液構造の決定 (阪大薬) 広明秀一・江端智彦・上杉晴一・○藤井 敏

1-27 ネオカルチノスタチンによるDNA切断: 相互作用モデルの提案 (1京大工・2協和発酵東京研) ○杉山 弘<sup>1</sup>・藤原健志<sup>1</sup>・河端 浩<sup>1</sup>・斉藤 烈<sup>1</sup>・平山令明<sup>2</sup>・依田信幸<sup>1</sup>

1-28 光駆動型ヒドロキシルラジカル発生試薬によるDNA切断 (1神戸商船大・2京大工) ○松郷誠一<sup>1</sup>・斉藤 烈<sup>2</sup>

1-29 コバルト (III) 錯体を触媒とするリン酸エステル結合の開裂によるRNA鎖切断 (筑波大物質工学系) ○松本洋一・米沢光治・小宮山真

1-30 新しいRNA触媒の検索-酸化還元反応を触媒するRNA成分 (1三菱化成生命研・2東北大理) ○柳川弘志<sup>1</sup>・小川洋子<sup>1</sup>・上野昌子<sup>2</sup>・佐々木和男<sup>2</sup>・佐藤年男<sup>2</sup>

1-31 New Reagents and Solid Support for Automated Oligonucleotide Synthesis (Applied Biosystems) ○Huynh Vu・Christie McCollum・Cindy Lotys・Alex Andrus

- 1-32 ホスホロアミデート結合をもつオリゴヌクレオチド誘導体の構造と性質 (京大工・姫路工大工) ○北村昌紀・尾崎広明・山名一成<sup>\*</sup>・清水剛夫
- 1-33 キャップ構造をもつメッセンジャーRNAの合成 (東工大総合理工・東大理) ○岩瀬礼子・前田至幸・藤原淑記・関根光雄・畑 辻明<sup>\*</sup>・三浦謹一郎

## 第2日 (11月9日)

### 口頭発表 (9時10分から) —

- 2-1 酵母サイクロヘキシミド感受性因子 (CH・SF) のc DNA配列決定とこの因子の機能について (名大理) 北岡義久・○宮崎正澄
- 2-2 ラット血清型グルタチオン・ペルオキシダーゼ c DNAのクローニングと塩基配列の決定 (東海大医細胞生物<sup>1</sup>・病理<sup>2</sup>・東洋醸造生物工学研<sup>3</sup>) ○吉村真一<sup>1</sup>・末水洋志<sup>1</sup>・守内哲也<sup>1</sup>・渡辺慶一<sup>2</sup>・小野沢考<sup>3</sup>・溝口順三<sup>3</sup>
- 2-3 軟体動物ミトコンドリアDNAの塩基配列解析 (東工大生体機構・宇宙研) 嶋山 隆・姫野倭太<sup>\*</sup>・○貴家潤治・横堀伸一・上田卓也・渡辺公綱
- 2-4 大腸菌由来の試験管内タンパク質合成系での m RNAの安定化 (東工大) 平尾一郎・○吉澤聡子・三浦謹一郎
- 2-5 巨大DNA分子の動的挙動—反転電場による形態変化 (名大教養) ○松沢有希子・南川慶二・吉川研一・土井正男
- 2-6 4本鎖DNAと薬物との相互作用 (信州大繊維) 志田敏夫・○池田典仁・関口順一
- 2-7 十字型DNA構造のDNA結合性タンパク質による解消と鋳型活性の回復 (東京理科大基礎工・東北大農) ○吉田充輝・和賀 祥<sup>\*</sup>・水野重樹<sup>\*</sup>

特別講演2 Modulating the Physical and Biochemical Properties of Synthetic Polynucleotides by Backbone Modifications (Northwestern University) Robert L. Letsinger

### エキスカージョン (13時30分から) —

## 第3日 (11月10日)

### ポスター概要説明 (9時00分から) —

- 3-1 ウサギ脾臓より分離された3'-デオキシリボヌクレオチダーゼはラット脾臓のヌクレオチダーゼとは異なる分子である (埼玉医大生化) ○穂苅 茂・長谷川正博・坂岸良克
- 3-2 大腸菌 t RNA 燐酸化応の再検討 (名市大薬) ○水谷隆治・倉田 浩
- 3-3 Nucleotide 2', 3'-cyclic monophosphokinase action of *Streptomyces* ATP nucleotide 3'-pyrophosphokinase (九大農) 向井純一郎・三国谷雄・○平島明法
- 3-4 水素結合—静電相互作用によるヌクレオチドの二点捕捉 (長岡技科大工) ○本村忠広・井上和久・青山安宏
- 3-5 コドン選択と m RNAの二次構造 (放医研) 座間光雄
- 3-6 修飾塩基・糖を含むオリゴヌクレオチドの合成と制限酵素による認識 (千葉工大工・横浜国工大工・東大理) ○小松 博・高久 洋・河合剛太・横山茂之

- 3-7 ent-Oligodeoxynucleotides (東大理) ○藤森静芳・橋本祐一・首藤紘一
- 3-8 核酸と Benzimidazole Dye Hoechst 8208との相互作用 (山口大理) ○中村裕之・一二三晴美・久保田幸雄
- 3-9 CDおよび<sup>1</sup>H, <sup>31</sup>P NMRによる核酸と色素の相互作用に関する研究 (鹿児島大) ○八島栄次・田島照代・末廣なつみ・明石 満・宮内徳之
- 3-10 ピレン基を糖部に有するオリゴヌクレオチドの合成と性質 (姫路工大・京大工) ○山名一成・後々田忠夫・大橋由人・尾崎広明・北村昌紀・中野英彦・三軒 齋・清水剛夫
- 3-11 4量体 d (G<sub>4</sub>)・d (C<sub>4</sub>) の融解 (化技研・東工大総合理工) ○篠田孝子・和田 猛・大内将吉・畑 辻明
- 3-12 AUGCAUの自己相補的二重らせんにおける3'ダングリングエンドの安定性 (甲南大理) 杉本直巳・○長谷川慶子・佐々木宗夫
- 3-13 DNA中シトシンへの重亜硫酸イオンの付加反応と核酸構造研究への応用 (<sup>1</sup>岡山大遺伝子・<sup>2</sup>岡山大薬・<sup>3</sup>アラバマ大) ○根岸和雄<sup>1</sup>・山下利明<sup>2</sup>・別所忠昌<sup>2</sup>・早津彦哉<sup>2</sup>・R.D.Wells<sup>3</sup>
- 3-14 NMRによるカイコ t RNA<sup>Glu</sup>の3次構造の研究 (阪大蛋白研・名大理) ○天野まゆみ・京極好正・川上 実
- 3-15 ポリエチレンイミン系水溶性人工核酸と核酸との相互作用およびその構造変化 (阪大工) ○和田健彦・望月衛子・稲木良昭・竹本喜一

口頭発表 — (10時30分から) —

- 3-16 一部の配列を欠損した酵母 t RNA<sup>Trp</sup>分子のチロシン受容能について (名大理・東工大生命理工) ○吉成茂夫・西川一八
- 3-17 t RNA identityに対する discriminator塩基とアンチコドンの役割 (宇宙研・東工大生命化学) ○姫野俵太・朝原治一・田村浩二・長谷川典巳・上田卓也・渡辺公綱・清水幹夫
- 3-18 アミノアシル t RNA合成酵素による t RNAアイデンティティ決定因子の認識 (東大理・横浜国大工) 村松知成・瀧木 理・神野秀雄・新美達也・館野 賢・河野俊之・河合剛太・宮澤辰雄・武藤 裕・○横山茂之
- 3-19 デオキシオリゴヌクレオチド d (GGGGCCCC)<sub>2</sub>とクロモマイシン複合体のNMRによる構造解析 (阪大蛋白研・阪大薬) ○阪口律子・片平正人・京極好正・藤井 敏
- 3-20 脂質核酸複合体のらせん構造—Dimyristoyl-5'-phosphatidylribonucleosidesからのらせん構造の形成と形態 (<sup>1</sup>神戸大理・<sup>2</sup>三菱化成生命研・<sup>3</sup>日本電子) ○糸島由紀子<sup>1</sup>・小川洋子<sup>2</sup>・津野勝重<sup>3</sup>・柳川弘志<sup>2</sup>

特別講演3 Recent Investigations using Thiophosphate and Phosphonate Analogues of Nucleotides (The university, Scheffield) G.Michael Blackburn

ポスター発表 — (13時30分から) —

口頭発表 — (15時30分から) —

- 3-21 新規6位置換アシルヌクレオシド、HEPT、の類緑化合物の合成とその抗HIV-1活性 (昭和大薬<sup>1</sup>・福島医科大<sup>2</sup>・三菱化成医薬研<sup>3</sup>・パーミンガム大<sup>4</sup>・ルーベン大<sup>5</sup>) 田中博道<sup>1</sup>・馬場昌範<sup>2</sup>・○姥澤 賢<sup>3</sup>・高嶋秀昭<sup>3</sup>・関谷浩一<sup>3</sup>・宮坂 貞<sup>1</sup>・新田一誠<sup>3</sup>・R.T.Walker<sup>4</sup>・E.De Clercq<sup>5</sup>
- 3-22 ビシクロアミド体を用いる炭素環オキセタノシンおよびその関連化合物の高立体選択的合成 (東北大薬) 片桐信弥・○野村昌弘・佐藤 弘・金子主税
- 3-23 異常ヌクレオシドの合成とその生理活性 (<sup>1</sup>慶応大理工・<sup>2</sup>日本化薬総合研) ○渡辺達也<sup>1</sup>・植木信哉<sup>1</sup>・西山

繁<sup>1</sup>・山村庄亮<sup>1</sup>・加藤国基<sup>2</sup>・永井昌史<sup>2</sup>・滝田智久<sup>2</sup>

#### 特別講演 4 Total Chemical Assembly of Gene

(Moscow State University) ○Z.A.Shabarova・N.I.Sokolova・I.N.Merenkova

連絡先：464-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学教養部化学教室 早川芳宏

〔電話 (052) 781-5111 (内線4848)〕. F A X (052) 782-8261〕

#### ◆第6回ワークショップ「DNA複製」のご案内

原核生物から真核生物にわたってDNA複製の各ステップ、すなわち開始、伸長、終了および分配などにかかわる諸因子の相互作用を中心テーマとしたワークショップを開催いたしますので、多くの方々をご参加下さいますようご案内いたします。

日時：1991年1月24日(木)午後2時—26日(土)午前12時

会場：「京都平安会館」 京都市上京区烏丸通上長者町上ル Tel 075-432-6181

特別講演：

1月24日 金谷茂則(蛋白工学研) 「大腸菌 RNaseHの構造と機能」

1月25日 柳田充弘(京大理学部) 「分裂酵母における染色体の分配機構」

演題募集：1990年12月7日(金)までに、演題、演者(所属)、講演要旨(図表、文献などを含んでもかまいませんが、B5判1ページにまとめ、上下左右3cm位の余白を残して打ってください)を、下記あてお送り下さい。講演は原則として一研究グループ当たり一発表とします。また講演時間は申告制としますので、15分、20分、25分のうちいずれかを選んでください。

参加申込：1990年12月14日(金)までに、氏名、所属、連絡先(電話番号)、宿泊希望日(24日、25日)をご記入の上、お申し込み下さい。なお途中参加の方がございましたら、その旨お知らせ下さい。

なお、日程、会場の都合により講演時間、宿泊のご希望に添えない場合もありますので、予めご了承下さい。

費用：宿泊費(2泊)1万1千円—1万3千円程度、及び懇親会費5千円

主催：文部省重点領域研究「大腸菌ゲノムの全体像」総括班

代表 由良 隆(京大ウイルス研)

演題及び参加申込先：〒606京都市左京区聖護院川原町53

京都大学ウイルス研究所

永田俊夫 Tel. 075-751-4032

Fax. 075-761-5626

世話人：永田俊夫（京大ウイルス研） Tel 075-751-4032  
犬塚 學（福井医大・生化） Tel 0776-61-3111 (Ext.2221)  
大森治夫（京大ウイルス研） Tel 075-751-4033

## ◆各種シンポジウムのご案内

### 1. 1991年情報学シンポジウム

（バイオ・データベース、ゲノム・データベース、全文テキスト処理、ハイパーメディア他）

日時：1991年1月8日(火)～9日(水) 9：00～17：00

場所：日本学術会議講堂（地下鉄千代田線、及木坂駅下車）

参加申込：氏名、連絡先、資料必要の有無を葉書に記入し、12月20日までに申し込む。

当日受付あり、ただし資料は事前登録者優先。

申込先：〒106 東京都港区麻布台2-4-2 保科ビル3F

情報処理学会、情報学シンポジウム担当 木村保明

Tel 03 (505) 0505

参加費（資料代）：共催学会員5,000円、一般7,000円、学生1,500円

### 2. 第5回「大学と科学」公開シンポジウム

「脳と老化」

日時：1991年1月11日(金)～12日(土)

場所：有楽町朝日ホール

東京都千代田区有楽町2-5-1

Tel：03-284-0131

申込・問い合わせ先：ウォルシュジャパン(株)コンベンション事業部 I C O 内

「脳と老化」事務局

〒102 東京都千代田区二番町12-8 ロイヤルビル

Tel：03-5275-6981

### 3. 第5回「大学と科学」公開シンポジウム

#### 「食品のもつ生体調節機能」

日時：1991年1月17日(木)～18日(金)

場所：大阪フェスティバル・リサイタルホール

大阪市北区中之島2-3-18 Tel：06-203-7027

申込・問い合わせ先：(株)ジェイコム内「食品のもつ生体調節機能」事務局

〒600 京都市下京区塩小路通新町西入

新京都センタービル5F

Tel：075-341-1618

## ◆日本学術会議より

日本学術会議だより No.18 (抜粋)  
第15期日本学術会議会員の選出手続きが始まる

平成2年8月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議では、現在、第15期会員を選出するための手続きが進められています。今回の日本学術会議だよりでは、その手続きの概要に加えて、来年度に開催される共同主催国際会議等について、お知らせいたします。

### 第15期日本学術会議会員の選出について

日本学術会議では、現在、第15期会員（任期：平成3年7月22日から3年間）を選出するための手続きが進められている。

先般、最初の手続きとして、6月末日を締切期限に、各学術研究団体からの登録申請の受付が行われた。今回申請のあった団体数は、942団体であった。

今後引き続き行われる手続きとその日程の概略は次のとおりである。

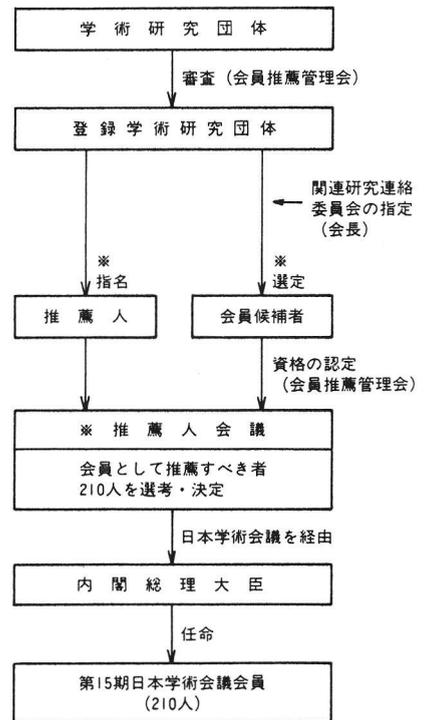
#### 《平成2年》

- ・ 9月上旬……………登録審査結果の通知
- ・ " ………………関連研究連絡委員会（注）についての意見聴取
- ・ 11月30日まで……………関連研究連絡委員会の指定
- ・ 12月上旬……………会員の候補者の選定及び推薦人の指名の依頼

#### 《平成3年》

- ・ 1月31日まで……………会員の候補者の届出の締切り
- ・ 2月20日まで……………推薦人（予備者を含む）の届出の締切り
- ・ 3月20日まで……………会員の候補者の資格の認定等の通知
- ・ 3月下旬……………推薦人に会議開催等の通知発送
- ・ 4月20日まで……………〈候補者関係〉異議の申出に対する決定
- ・ 5月中旬から  
6月上旬まで……………推薦人会議（会員及び補欠の会員として推薦すべき者を決定）
- ・ 6月中旬……………日本学術会議を経由して内閣総理大臣へ推薦
- ・ 7月22日……………第15期日本学術会議会員の任命

### 《会員選出手続きに関するフローチャート》



※ 指定された関連研究連絡委員会により区分された学術研究領域ごとに行われる（下記の（注）を参照）。

（注） 関連研究連絡委員会：学術研究団体はその目的とする学術研究の領域と関連する研究連絡委員会として、届け出た研究連絡委員会。届け出た関連研究連絡委員会が複数あるときは、日本学術会議会長は、登録学術研究団体の意見を聴いて関連研究連絡委員会を指定

（限定）する。

登録学術研究団体は、この指定された関連研究連絡委員会により区分された学術研究の領域ごとに、会員の候補者及び推薦人を届け出ることになる。

## 平成3年(1991年)度共同主催国際会議

本会議は、昭和28年以降、学術関係国際会議を関係学術研究団体と共同主催してきたが、平成3年(1991年)度には、次の6国際会議を開催することが、6月19日の閣議で了解された。(カッコ内は、各国際会議の開催期間と開催地)

- ◆第21回国際農業経済学会議  
(平成3年8月22日～29日、東京都)  
共催団体：日本農業経済学会外4学会
- ◆国際医用物理・生体工学会議(第16回国際医用生体工学会議・第9回国際医学物理学会議)  
(平成3年7月7日～12日、京都市)  
共催団体：(社)日本エム・イー学会外1学会
- ◆国際純正・応用化学連合1991国際分析科学会議  
(平成3年8月25日～31日、千葉市)  
共催団体：(社)日本分析化学会
- ◆第22回国際シミュレーション&ゲーミング学会総会  
(平成3年7月15日～19日、京都市)  
共催団体：日本シミュレーション&ゲーミング学会
- ◆一般相対論に関する第6回マーセルグロスマン会議  
(平成3年6月23日～29日、京都市)  
共催団体：(社)日本物理学会
- ◆第22回国際動物行動学会議  
(平成3年8月22日～29日、京都市)  
共催団体：日本動物行動学会

(以下略)

## 第4部報告－科学技術庁大型放射光施設建設設計画について(要旨)

(平成2年5月25日、第755回運営審議会承認)

予算規模約一千億といわれる科学技術庁大型放射光施設が実施段階に入った。このような大型施設の順調な建設、稼働後の有効利用のためには、研究者、技術者の努力はもとより、関連政府諸機関相互の理解と協力が不可欠である。我が国の放射光研究開発はこれまで大学等基礎的研究機関を中心として発展してきたのであるが、その経験と成果は今回の大型計画においても活用され、さらに発展せられるべきである。日本学術会議は、先に「大学等における学術研究の推進について－研究設備等の高度化に関する緊急提言－(平成元年第107回総会勧告)」において、大学等と各省庁研究機関の間の研究設備の相互利用、研究者の相互交流の必要性を指摘した。第4部は、今回の科学技術庁の大型放射光施設の建設及び共同利用がその重要な具体例であると判断し、物理学、結晶学、生物物理学三研究連絡委員会委員長より日本学術会議会長あての申入れにもとづいて本報告をとりまとめたものである。

## 化学研究連絡委員会報告－大学における研究環境、特に研究実験室のスペースについて(要旨)

(平成2年5月25日 第755回運営審議会承認)

我が国においては、基礎科学の振興が叫ばれながら、大学等の研究環境の改善は長い間取り残されたままである。

日本学術会議化学研究連絡委員会の調査によると、我が国の大学における化学関係の学科の研究実験室のスペースを研究者一人当たりにした場合、欧米の大学と比べて2分の1から3分の1の広さに過ぎず、実験台や戸棚などの占める面積を勘定に入れると、実質的には3分の1から4分

の1のスペースしかない極度の狭さである。

各種の危険を伴う化学実験の安全性を確保するためには、大学等の研究実験のスペースを抜本的に改善することが絶対に必要であり、差し当たり現在の面積を倍増する必要がある。